



作 あまんきみこ

イラスト 櫻井 砂冬美

せつぶんの よるの ことです。

まごとくんが、げんきに

まめまきを はじめました。

まごと「ふくはー うち。

おにはー そと。」

ちやのまも、きやくまも

こどもべやも、だいどころも、

げんかんも てあらいも、

ていねいに まきました。

まごと「あつそうだ！

ものおきごやにも、

まかなくっちゃ。」



(ばらばらばら)

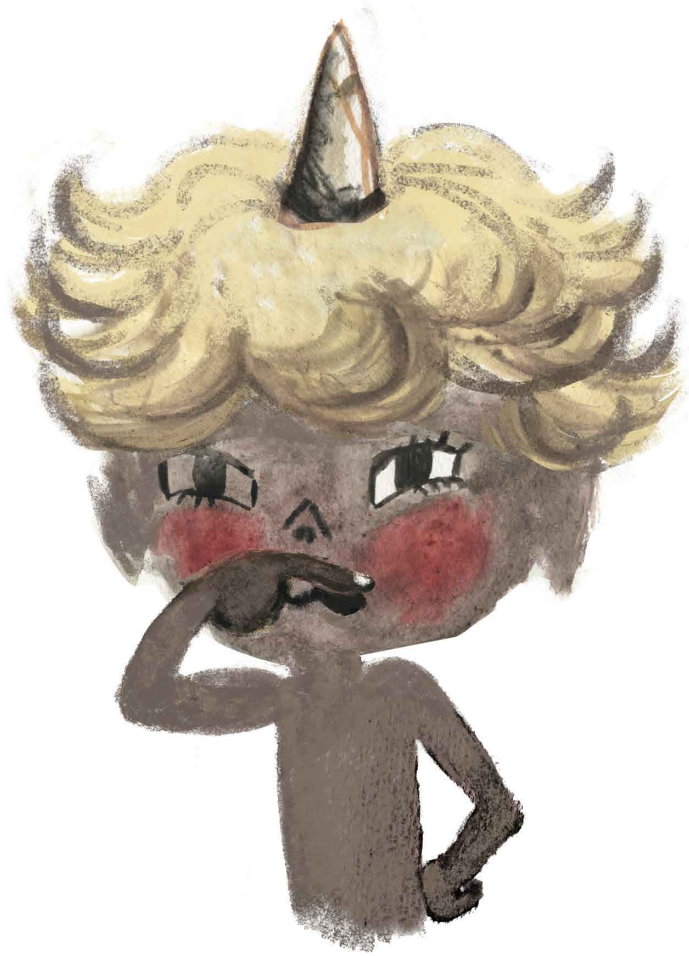
まこと「ふくはーうち おにはーそと」

そのものおきごやのてんじょうに、
きよねんのはるから、
小さなくろおにの
こどもがすんでいました。

おにたというなまえでした。



おにたは、気のいい
おにでした。



きのうも まことくんは、
なくした ビーだまを
こっそり ひろってきてやりました。

(ザーーーー ゴロゴロゴロ)

このまえは、にわかあめるとき、ほしものを、
ちやのまに なげこんでおきました。

おとうさんのくつを

ぴかぴかに ひからせておいたことも あります。
でも、だれも おにたが したとはきがつきません。



まこと「ふくはーうち おにはーそと

ふくはーうち おにはーそと」

(ぱら ぱら ぱら)

まめまきの おとを

ききながら、おにたは

おもいました。

おにた「にんげんって おかしいな。

おには わるいって、きめてるんだから。

おににも、いろいろ あるのにな。

にんげんにも、いろいろ いるみたいに。」

そして、ふるい むぎわら ぼうしを かぶりました。

つのかくしの ぼうしです。こうして、かさつとも

おとを たてないで、おにたは、ものおきごやを

でていきました。



こなゆきがふっていました。
どうろもやねものはらも、もうまっしろです。

おにた「いいうちがないかなあ。」

でも、ごんやは、どのうちも、
ひいらぎのはをかざっているので、
はいることができません。
ひいらぎは、おにのめをさすからです。



小さな はしを わたったところに、
トタンやねの いえを みつけました。

おにた「こりゃあ、まめの においが しないぞ。しめた。

ひいらぎも かざっていない。」

どこから入ろうかと、きよろきよろ
みまわしていると、

(ガチャ)

いりぐちのドアが あきました。
おにたは、すばやく、いえの
よこに かくれました。



おんなのこが できてきました。

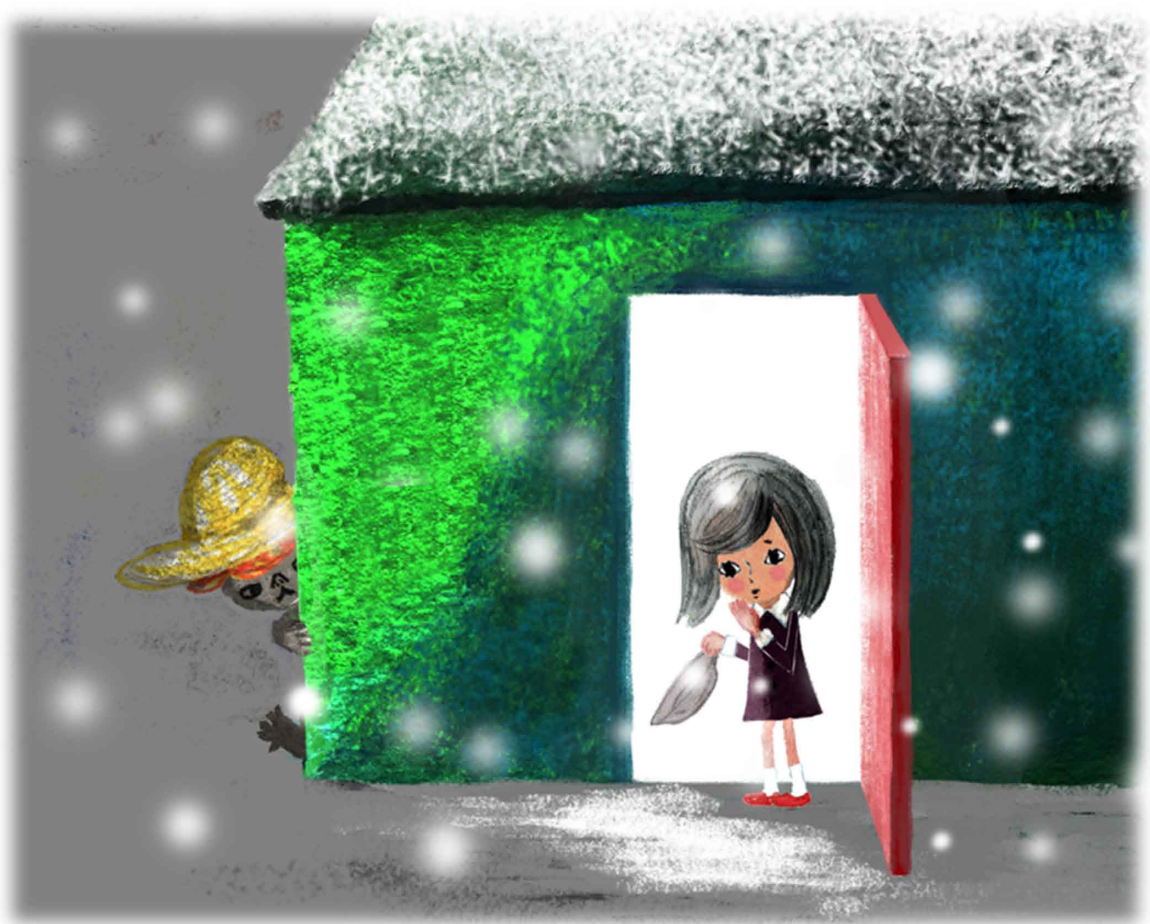
そのこは、でこぼこした せんめんきのなかに、
ゆきをすくって いれました。

それから、あかくなつた 小さなゆびを、
口に あてて、はーっと 白い いきを
ふきかけています。

おにた「いまのうちだ。」

そう おもつた おにたは、ドアから、
そろりと うちのなかにはいりました。

そして、てんじょうのはりのうえに
ねずみのように、かくれました。



へやのまんなかにも、うすいふとんがしいてあります。
ねているのは、おんなのこの おかあさんでした。
おんなのこは、あたらしいゆきで ひやしたタオルを、
おかあさんの ひたいに のせました。

おかあさん「おなかがすいたでしょう。」

おんなのこ「いいえ、すいてないわ。」

あたし、さつき、たべたの。

あのねえ…あのねえ…。

知らないおとこのこが もってきてくれたの。

あつたかい あかごはんと、うぐいすまめよ。

きょうは、せつぶんでしよう。

だから、ごちそうが あまったって。」

おかあさん「……。」

おんなのこ「はーっ」



おにたは なぜか、せなかが

むずむず するようで

じつとしていられなく なりました。

それで、ごっそり はりをつたって、

だいどころに いってみました

おにた「ははあんー」

だいどころは、かんからかんにかわいています。

こめつぶ ひとつ ありません。

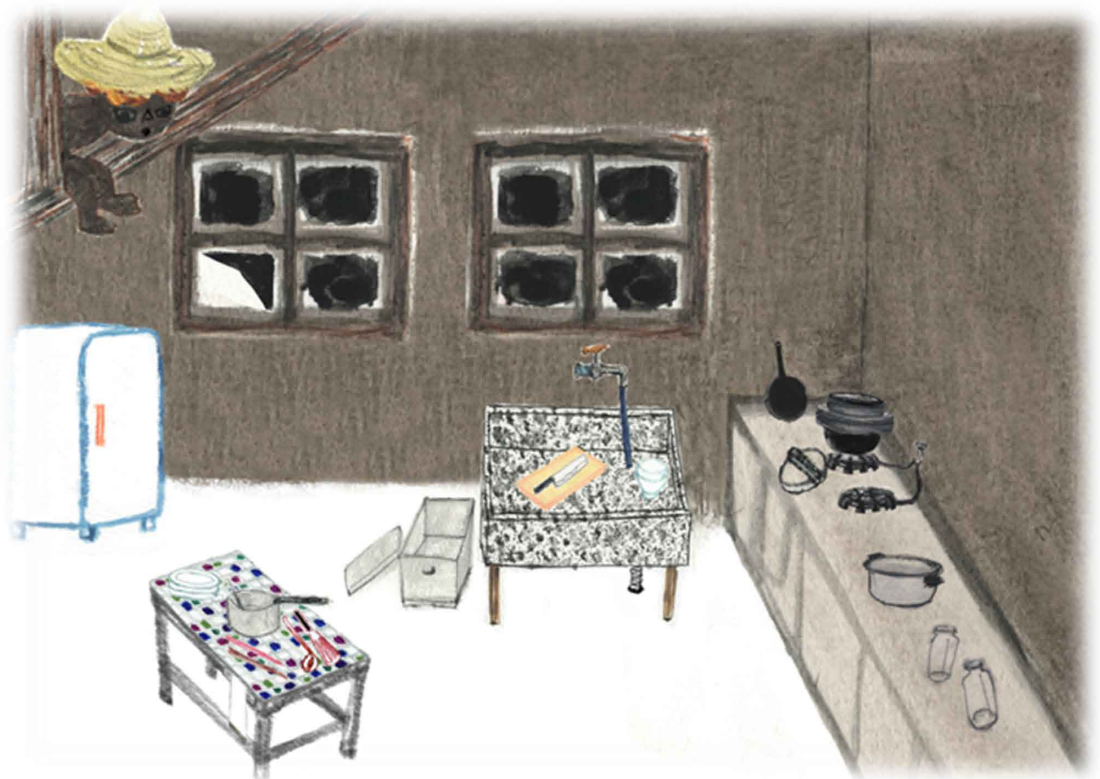
だいこん ひとときれ ありません。

おにた「あのちび、なにも たべちゃ いないんだ。」

おにたは、もうむちゅうで、だいどころの まどの

やぶれたところから、さむいそとへ とびだして

いきました。



(ドン ドン)

おんなのこ「いまごろ、だれかしら？」

(ガチャ)

おんなのこが でていくと、ゆきまみれの むぎわらぼうしを
ふかく かぶった おとこのこが たっていました。

そして、ふきんをかけた おぼんのようなものを さしだしたのです。

おにた「せつぶんだから、ごちそうが あまったんだ。」

おんなのこ「あ・あたしに くれるの？」



そつと ふきんをとると、
あたたかそうな あかごはんと
うぐいすいろの にまめが
ゆげを たてています。

おんなこの かおが、ぱつと あかるくなりました。

そして、にこつと わらいました。



おんなのこが ふつと なにか かんがえこんで います。

おにた「どうしたの？」

おんなのこ「もうみんな、まめまきすんだかな、と思ったの。

・・・あたしも まめまき、したいなあ。」

おにた「なんだって？」

おんなのこ「だって、おにがくれば、

おかあさんの

びょうきが

きつと わるくなるわ。」

おにたは てを だらんと さげて ふるふるっと

かなしそうに みぶるいして いいました。

おにた「おにだって、いろいろ あるのに。」

おにだって・・・。」



こおりがとけたように、きゆうにおにたが
いなくなりました。

あとには、あのむぎわらぼうしだけが、
ぽつんとのこっています。

おんなのこ「へんねえ。」

おんなのこは たちあがって、あちこち さがしました。

おんなのこ「この ぼうし わすれたわ。」

おんなのこ「まあ、くろい まめ！ まだ あったかい……」



おんなのこ「さっきのこは

きつとかみさまだわ。

そうよ、かみさまよ……。」

おんなのこ「だから、おかあさんだって

もうすぐよくなるわ。」

おんなのこ「ふくはーうち おにはーそと

ふくはーうち おにはーそと

ふくはーうち おにはーそと」



おしまい